



並木中等story

令和4年4月26日号

心理学者の人間観



今日は心理学者の久能先生、末武先生、保坂先生、諸富先生が書かれた『ロジャーズを読む』（岩崎学術出版社）からの話題です。本には人間観について次のように書いています。「海草であれミミズであれ、ありとあらゆる有機体は、自らを維持し実現し強化する方向に向かっていくようにできている。この世におけるすべての〈いのち〉あるものは、本来、自らに与えられた〈いのちの働き〉を発揮して、よりよく、より強く生きるように定められている。」

これを読んで皆さんはどのように思いますか。「いいえ、私は違う。私は、落ち込んでいて、強く生きようとすることはできない。」と思う人もいるでしょう。私は、下線部のことを不登校の子どもを持つお母さんに伝え、反論されたことがありました。しかし、私は今でも下線部を信じています。不登校の生徒でも、部屋に居てしっかりといろいろなことを考えています。悩

んでいます。悩みがある、そのことが強く生きようとする証だからです。人は悩みは少ない方がいいと思ってしまいます。しかし、しっかりと悩むことが成長につながっているのです。人は悩んで成長するようにできているのです。

《祝！文部科学省教育課程研究実践協力校指定》

文部科学省から連絡があり、本校が本年度、物理及び科学の科目で教育課程研究実践協力校に指定を受けました。昨年度、一昨年度の地理の指定に続き、3年連続となります。本校では新学習指導要領の観点別評価について研究を深めてまいります。